



NEWS LETTER かながわ

2019年度第2号(通巻第26号)

2020年3月 神奈川支部 発行

連絡先 e-mail:jacdpkanagawa@gmail.com

巻頭言

神奈川支部 支部長 久保山茂樹

役員会の自慢です！

前任の三隅輝見子先生から神奈川支部長を引き継いで2期5年が経とうとしています。いささか「手前みそ」になるのですが、今回は、神奈川支部役員会の自慢をお話することをお許し下さい。神奈川支部役員会の自慢は、なんとと言っても雰囲気があたたかく、前向きなことです。もちろん支部運営を協議するのですから難しい話もたくさんあります。皆さんで「うーん」と考え込んでしまうこともしばしば。でも、そんな時でも、なぜか、いつの間にか、どこからか笑い声が起こってみんなで笑っているのです。そうすると、意外と良いアイデアが浮かんで「よーし、それで行こう！」となっているのです。皆さんの「問題解決能力」の高さを感じるとともに、大変な状況でも明るく前に進もうとする姿勢に、私は、いつも鼻の奥がツンとなっていました。

2つ目の自慢は、役員の専門領域の幅の広さです。勤務先も、教育や療育の現場を中心に、大学や研究機関まで実に多様です。対象とする年齢も状態も様々です。役員会で話していると、自分が知らない情報や知見が次々と入ってきます。とても勉強になります。もちろん、他領域の専門用語がわからないこともあります。そんな時は、にっこり笑ってうなずいておいて、あとでこっそりお尋ねするようにしています(笑)。

そして、なによりも自慢なのは、資格更新研修の質の高さです。まず、研修テーマが非常にバリエーション豊かであることです。この5年間のテーマは、対象とする領域も年齢も実に幅の広いものになっています。そして、内容が極めて実践的であるということです。研修というと、どうしてもアセスメント等の技術・技法が中心になりがちです。実際、全国や各支部の研修はそのような傾向があります。しかし、神奈川支部は、技術・技法よりも、対人援助職としての基本姿勢を学ぶことや支援の在り方を豊かにすることにこだわってきました。こうした研修は会員の皆様からも好評をいただいていると自負しています。

こんな素晴らしい役員の皆さんに心から感謝するとともに、いつまでもこの雰囲気が続くことを願っています。

会員の皆様には、年度末を迎えお忙しい日々をお過ごしのことと拝察します。また、新型コロナウイルスも気がかりです。どうか、くれぐれもご自愛なさって、お元気にご活躍下さいませようお祈り申し上げます。



神奈川支部研修会報告

2019年12月8日(日)に、第3回資格更新研修会を鎌倉女子大学大船キャンパスにおいて実施しました。次のテーマで講師の先生をお招きし、お話をうかがいました。

講演会

テーマ： 「無理をしない認知症との付き合い方」

講師： 鈴木ゆめ氏（横浜市立大学附属市民総合医療センター 一般内科教授・部長）

認知症という言葉は広く社会に浸透してきていますが、わかっているようでわかっていない認知症について、5つの疑問に答える形でその基礎から治療に関することまで幅広くお話しいただきました。

認知症とは、「一度正常に発達した認知機能が、後天的な脳の障害によって持続的に低下し、日常生活や社会生活に支障を来すようになった状態をいい、意識障害のないときに見られるもの」と定義されるそうです。つまり、認知症は大人のみに生じ、治らないものということになります。脱水や体調不良、服薬や服薬忘れなどによる「身体状態の変調」や、腎不全、肝不全、心不全、呼吸不全、甲状腺機能低下症などの「身体の病気」、正常圧水頭症、慢性硬膜下血腫などの「脳の病気」による認知障害と鑑別する必要があるとのことでした。

認知症は、大きく分けるとアルツハイマー病、レビー小体型認知症、前頭側頭葉変性症などの「中枢性変性疾患による認知症」、脳血管障害による「血管性認知症」、「その他の要因による認知症」の3つに分類されるそうです。アルツハイマー病では記憶力障害が強い、レビー小体型認知症では色鮮やかな幻覚が生じる等、それぞれの疾患によって生じる症状に違いがあるため、まずは典型的な症状を抑えておくことが必要であるとのことでした。その中でも特に注目すべきものとして、嗜銀顆粒性認知症を挙げられていました。嗜銀顆粒性認知症は、比較的高齢発症（70代から80代）であり、物忘れ、いらいらといったアルツハイマー型と類似する症状を示しますが、いらいらが強く暴言や暴力を生じることがあるため、家族や社会が対応に困り、時に事件化することもあるとのことでした。治療法に関しても、抗認知症薬はむしろ症状を増悪させることがあり、抑肝散や精神安定剤の方が効果的であるとのことでした。認知症の治療では中核症状に対しては進行を遅らせることはできても根治は難しいそうですが、周辺症状に対しては治療の効果があるとのことでした。また、血管性認知症は、生活習慣の改善などで予防することができるため、予防や健診などにも力を入れていく必要があるとのことでした。

先生の著書の紹介やTV出演された際のお話などもはさみながら、認知症についてわかりやすくお話いただき、あっという間の3時間となりました。

(文責：須田恭平)

研修会の様子



鈴木 ゆめ氏



神奈川支部研修会についてのアンケート結果

アンケートにご協力いただきありがとうございました。ご意見・ご感想を抜粋、一部省略し掲載させていただきました。

第3回研修会

◆ 講演：無理をしない認知症との付き合い方

講師：鈴木ゆめ 氏（横浜市立大学附属市民総合医療センター 一般内科教授・部長）

- とても具体的でわかりやすい内容でした。これまで身内がこのような事態となった時のことを考えて、不安しかありませんでしたが、本日の内容を知れて、少し前向きになれた気がします。
- 認知症は思った以上に深く、深刻であると気づかされました。認知症について無知だったため、とてもためになりました。難しいお話を、簡単にわかりやすく、そしてたくさん笑わせてくれ、免疫力アップにつながりました。
- 軽妙な語り口であったという間の3時間でした。知識の整理にもつながりました。嗜銀顆粒性認知症は、初めて聞きました。著書も購入してみようと思います。
- 訪問看護の業務に携わっています。漠然とした認知症について、知識を整理して理解することができました。患者さんのご家族は、介護で苦勞されています。患者さんの状態をきちんと知り、対応の仕方を一緒に考えていきたいと思っています。先生の本を読みます。わかりやすい本を探していたところでした。ありがとうございました。
- エネルギーで楽しいあつという間の時間でした。これまでの断片的な知識が、少しまとまり整理できたように思います。認知症のパターン、予防、発見、薬、今後の対応について知識を持つことができました。
- 話術が巧みで、大事なポイントがスイスイと楽しく頭に入ってきました。認知症について最新の知見をわかりやすく、役に立つ形で教えていただき、とてもよかったです。「きちんと知ればこわくない」ということも、よく理解できました。
- 認知症についてよく知らなかったのでもち勉強になりました。自分は乳幼児の現場にいるので、あまり高齢者と関わることはありませんでしたが、今後は社会問題として小さな子どもを育てる世代でも、家族のこととして悩む親も増えてくると思うので、大事な知識だと感じました。

◆ 全体の運営について

- 研修会というと、「手狭」という印象ですが、今日の会場はとても快適でした。
- トイレが混んでいた時に、別の棟を案内してもらい、助かりました。
- とても丁寧に運営されていました。

◆ 今後の研修会で取り上げてほしいテーマやご講演いただきたい講師など

- マルトリートメントの関連
- 小学生に焦点をあてた講演
- 学級崩壊のメカニズムについて
- 犯罪者の出所後の地域支援
- 大人の発達障害について（職場での対応、理解、役割。本人にどのようにして伝えるか
- 性の問題の扱い方 ex 発達障害と性 性加害、性被害両方の扱い方など
- ゲーム依存、認知行動療法の実際、思春期以降の発達障害者支援
- 子どもの精神疾患、愛着障害

ご意見ご要望ありがとうございました。ここ2、3年の研修テーマと突き合わせつつタイムリーで要望の高いテーマを取り上げていきたいと思っています。

(研修担当より)



職場紹介

横浜市立本郷特別支援学校 特別支援教育コーディネーター 永野 実生（ながの みお）

横浜市立本郷特別支援学校は、JR本郷台駅から徒歩13分のところにある、主に知的障害のある方を対象とした学校です。昭和54年の「養護学校義務化の完全実施」に伴い設置され、市立養護学校としては市内4校目の設立となりました。昭和56年に現在の校舎が建ちましたが、当時は「東洋一の素晴らしい設備」と言われたそうです。地域の方に温かく見守っていただき、40周年を迎えました。平成31年度は、小学部73名、中学部44名、高等部51名の計168名の児童生徒でスタートしました。学区は横浜市の栄区、戸塚区、泉区で、スクールバスが5台運行しています。

120人を超える職員の中で私が担っているのは、特別支援教育コーディネーターという仕事です。この仕事は①校内や他関係機関との連絡・調整、②保護者の方の相談窓口、③地域の小・中学校等への支援、などが主な業務となります。①・②に関しては常に担任教員とやり取りをしながら、子どもたちへのよりよい支援環境に向け、日々努力をしています。また、自立支援協議会他、様々な会議にも参加しています。③に関してですが、ここ横浜市は「横浜型センター的機能」として、「横浜市立小学校・中学校・義務教育学校・高等学校に在籍する支援の必要な児童生徒のために、特別支援学校・通級指導教室・地域療育センター等が、主に担っている障害種別に基づく専門性を活かし、相手校のニーズに応じ、地域を意識した展開によって学校支援を行う」という形でのセンター的支援を行っており、本郷特別支援学校は、その中で栄区・戸塚区・泉区の支援を担当しています。本校には特別支援教育コーディネーターは2名おり、私は戸塚区と泉区からの依頼に対応をさせていただいています。一番多いのは小学校からの依頼です。平成31年度は一般学級・個別支援学級（どちらも横浜市での呼び方です）での子どもたちへの指導に関する相談や教職員対象の研修講師（進路・性教育・発達障害理解他）、ケース会議への参加などのご依頼を頂いており、年間では70件以上となりました。訪問相談支援では、一度伺うと1時間目は〇年〇組、2時間目は△年△組…というように、複数クラス、複数名拝見することがほとんどですが、少ない時間で必要なアセスメントをし、相手の方に分かりやすく、「明日からやってみよう」と感じていただける内容を伝えようと努力しています。

「職場紹介」大募集！

このコーナーで職場紹介をしてくださる方を募集しています。神奈川支部に所属されている方であれば、掲載させていただきます。医療、福祉、教育、司法などお互いを知り、効果的なネットワークを構築していくためにも、ぜひご協力をお願いします。

<連絡先>

神奈川支部 広報担当宛

e-mail: jacdpkanagawa@gmail.com



お知らせ

■ 神奈川支部 2020 年度 総会・第 1 回資格更新研修会

○日 時：2020 年 5 月 17 日（日）12：30～16：10(受付 12：00～) 【1 ポイント】

○会 場：ユニコムプラザさがみはら セミナールーム 1・2（定員 192 名）

○内 容

①<講演会>…12：30～15：30

- ・「豊かな成人期をむかえるために今できること
－障害のある方々の生活を支える立場として－」
- ・講師…平野 章氏（社会福祉法人かたるべ会 理事長）

② <総 会>…15：35～16：10

* 詳細は士会ホームページ、神奈川支部ホームページ、SOLTI（神奈川支部会員のみ）をご覧ください。

* 今回は 2020 年度支部総会を兼ねています。

今回の総会の内容には、役員の変更などもあります。例年、参加者が少ない現状がありますので、多くの会員の方のご参加を是非お待ちしております。

■ ニュースレターの配信について

ニュースレターの配信は、現在神奈川支部の Web サイトからのみにさせて頂いており、郵送はしておりません。今回もホームページにアップした後、SOLTI にて「アップしました」と配信させて頂きました。お近くの会員の方でご存じない方がいらっしゃいましたら、神奈川支部のホームページを見て頂けますよう、是非お知らせください。



<編集後記>

全国の学校に臨時休校の要請が出されるなど、新型コロナウイルス感染に関する状況は、かつて経験したことのないような事態に突入してしまいました。会員の皆様も、混乱が一日も早く収束することを願い、毎日を過ごされていることと思います。「今自分にできることは、微々たることしかない」と思うと、もどかしくもなりますが、「臨床発達心理士としての自分に今できること」と考える必要があるかもしれない、などと思ったりもしています。

その様な状況の中発行するニュースレターとなりましたが、今回は 12 月の第 3 回資格更新研修会のご報告を中心にお届けしました。

今回のニュースレターにお気づきの点、ご意見・ご感想等ございましたら、今後のニュースレター充実のためにも生かしていきたいと思っておりますので、支部メールアドレス (jacdpkanagawa@gmail.com) にご連絡をお願いいたします。

(広報担当 橋爪美津子・佐藤朋実)